

- 新聞販売業の皆様へ -

STOP! 転倒災害

【配達中の転倒、交通事故を防ぎましょう】

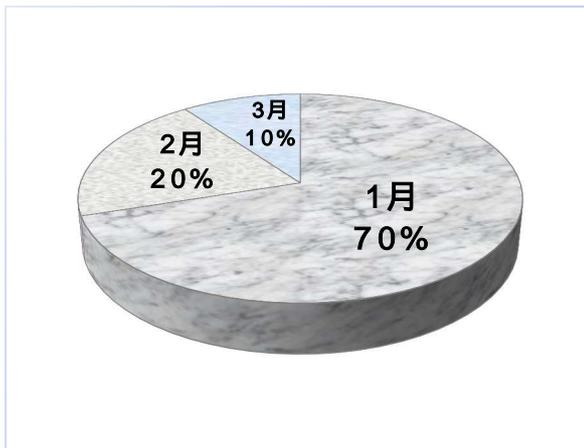


平成29年に発生している新聞販売業での労働災害は、90%が1～2月の冬季に発生し、その90%が転倒による災害です。[9月末時点]

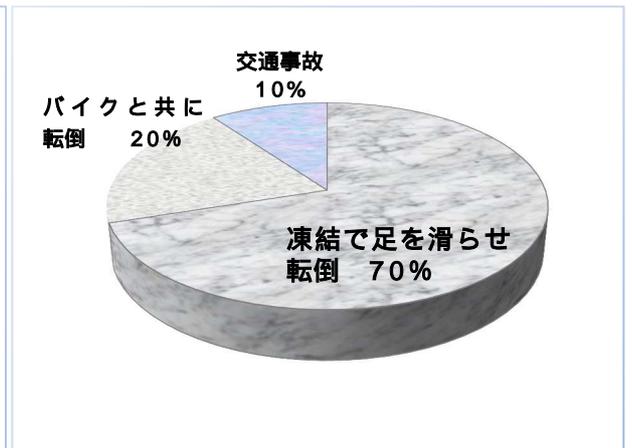
これらの転倒災害により仕事を休業した日数は平均で2か月にもおよびます。

また、交通事故による休業災害も発生しています。

平成29年 災害発生月



平成29年 災害の型別



バイクと共に転倒事例：道路のくぼみにタイヤがはまり、転倒

：ヘルメットがずれ、視界が遮られバランスを崩し転倒

積雪・凍結などで転倒災害のリスクが高くなる冬期間は裏面の対策が特に重要です。



津山労働基準監督署

仕事中に転倒して4日以上休む方は年々増加の一途をたどっています。積雪・凍結などで転倒災害のリスクが高くなる冬期間は以下の対策が特に重要です。

天気予報に気を配る。

寒波が予想される場合などには、労働者に周知し、早めの対策を実施しましょう。

時間に余裕をもって歩行、作業を行う。

時間に余裕をもって、落ち着いて作業をするよう心がけましょう。小さな歩幅で靴の裏全体を付けて歩くようにしましょう。

危険マップの作成、適切な履物などの確認。

配達等の作業中、危険を感じた場所の情報を収集し、労働者への教育の機会に伝えるようにしましょう。また、履物等の確認を行いましょ。

転倒しないための靴選びのポイント。

[サイズ]: 小さすぎても大きすぎても踏ん張りがきかず、バランスを崩しやすくなります。

[屈曲性]: 屈曲性が悪いと、すり足になりやすく、つまづきの原因になります。

[重量]: 重すぎると足が上がりにくくなり、つまづきの原因になります。

[重量バランス(前後)]: つま先方向に重量が偏っていると、歩行時につま先が下がり、つまづきの原因になります。



[つま先部の高さ]: つま先の高さが低いと、ちょっとした段差にも、つまづきやすくなります。



[防滑性]: 靴底が滑りにくいこと。やわらかいゴム底のものはゴムがすり減っていないかもしっかり確認しましょう。

[撥水性・防水性]: 水分が靴の中に入り込まないこと。

[保温性]: 靴の中を温かく保てること。

